

<第二回 発表会と大会について> (2023.11.18 インタビュー)

今回は、第二回ということで、「発表会」と「大会」について」というテーマで話を聞いてみました。

—聞き手：こんばんは。今回は、「発表会」と「大会」について」ということで、話を伺いたいです。私たちのマジックショーは、発表会という言葉を使っていますが、この「発表会」という言葉にもこだわりがあると聞きましたが。

—会長：はい、こんばんは。そうですね。私たちがイベントのタイトルを「第〇〇回発表会」としているところから、話させてもらいますね。この神奈川県にもマジックサークルはいくつもあってね、年に1回程度マジックイベントを企画している団体も多いんだよね。そのイベントのタイトルはいろいろあるんだけど、大きく分けると

「第〇〇回マジック発表会」（湘南マジシャンズクラブはこれ）

「第〇〇回マジックフェスティバル」

「第〇〇回奇術大会」

の3つになる。

—聞き手：あまり気にしていなかったですけど、そういわれてみれば、そうですね。

——註：以下、会長の個人的な考えが多分に含まれています——

—会長：「フェスティバル」や「大会」という名が付くと、ショーを意識しているところがある。ジェネラルマジックとあって、一人の演者があれもこれもと雑多なマジックを入れてくることもあるが、それも許されると思う。例えば一人の演者が、まずはロープマジックを見せた後、そのままロープをリングに持ち替えて演技をしてもいい。そのため、一人の時間が8分間とか10分間とかに長くなっても構わない。また、ネタかぶりといって、他の人と同じようなネタを披露することもある。そういった、いわゆるお祭り感覚のショーが「フェスティバル」「大会」だな。もしかしたらコンテストに近い感じかも知れない。コンテストでは、1人が複数のマジックを連続して披露したり、コンテスト同士でネタがかぶったりしてしまうこともあるが、気にしないだろう。

—聞き手：まあ、社会人サークルで、マジックフェスティバルと名前を付けてい

るショーにもよく行きますが、大体の方は、5分程度のマジックで、あまり雑多なものは見かけませんが・・・

—会長：まあ、そうかもしれないがね。「フェスティバル」「大会」という名前から受ける私のイメージだけだね。それで、今度は「発表会」だが、「発表会」には練習したマジックをしっかりと見てもらうという目的があると思うんだよね。つまり、しっかり見てもらうためにも、一人があまり長くやってはいけない。そして、一人の持ち時間が5分としたら、その5分の中で1つのマジックをじっくり見せる。ロープマジックならロープマジックを、リングマジックならリングマジックをしっかりと披露する。まあ、ようするにだな、メインのマジックが何かをわかるようにする。料理で言えばアラカルトだな。アラカルトはフランス語でいう「一品料理」だ。それぞれの料理ごとに満足してもらい、最後に全体としても満足してもらおう。それとおなじで、ひとつひとつのマジックの奥行をしっかりと見せるマジックショーにしたい。

—聞き手：なるほど。「発表会」という名前でショーを行う以上、しっかりとしたマジックを見せる必要がありますね。

—会長：うん、もちろんそうだね。これはあくまでも、私見であり、私が「発表会」と名付けた理由だよ。他の「発表会」と名付けていないショーを見ても、どの団体だってすごく練習したことが伝わってくるようなショーを見せてくれるのはわかっている。逆もあって、私たちも「発表会」と名付けているものの、堅苦しく、不思議さだけを追求したようなマジックショーを行っているわけではなく、フェスティバル要素もふんだんに含まれたショー構成で行っているよね。

—聞き手：確かにそう思います。

—会長：そうだね。私たちの発表会だって、バラエティーに富んだショー構成になっていたが、それぞれがアラカルトとしても光るように、一人ひとり意識をもって練習したことが伝わるようにしたい。そういう意味で言えば、2024年5月26日（日）に行う「第22回発表会」も「発表会」ということを意識した上で、演目やルーティーンを決めるといいと思うんでね。まず、やりたいことを選んだら、講師やメンバーと相談しながら決めていくといいんでね。

—聞き手：ありがとうございます。会長のこだわりが聞けて良かったです。

(終わり)

※次回は、「MC について」とし、MC をプロの方をお願いしている背景などを聞く予定です。